



【鎧三段飾り】

標準的な段飾り(一例)

※セットにより付属品は異なる場合がありますので、お店でご確認ください。

一段目

- 鎧 (よろい)
- 屏風 (びょうぶ)
- 櫃 (ひつ)
- 太刀 (たち)
- 弓 (ゆみ)
- 陣屋提灯 (じんやちょうちん)

二段目

- 軍扇 (ぐんせん)
- 太鼓 (たいこ)
- 陣笠 (じんかさ)

三段目

- 柏餅 (かしわもち)
- 八足台 (はっそくだい)
※または三方台
- 粽 (ちまき)
- 篝火 (かがりび)

鎧・兜の飾り方(1)

端午の節句飾りは、お祝いをする男の赤ちゃん自身を守るもので、一般的には長男の初節句には鎧を飾ることが多く、次男や三男は兜を飾る傾向にあります。飾りは一人ひとりのお守りですから、それぞれのお子さんに用意するのがよいでしょう。

内飾りと外飾り

鎧、兜など、室内に飾るものを内飾りと言い、戸外に飾る鯉のぼりや、鐘馗旗、武者のぼりは外飾りと言います。外飾りも、それぞれのお子様に合わせて飾るのがよいとされています。

飾るときの方向や場所

一般的には南向きか東向きに飾るのがよいとされていますが、端午の節句の飾りは、それ自身が災厄除けのシンボルであり赤ちゃんのお守りです。飾る場所や、鎧、兜の大きさなどを考えて飾って下さい。



【収納飾り】

仕舞う時は、下の箱の中にすべて納ります。



男の子の初節句・端午の節句飾り

鎧・兜の種類(一例)

*セットにより付属品は異なる場合がありますので、お店でご確認ください。



【兜平飾り】



【鎧平飾り】



【兜平飾り】



【着用鎧飾り】



【子供大将飾り】



【兜ケース飾り】



鎧・兜の飾り方(2)

鎧・兜の意匠が異なりましても、この飾り方と仕舞い方を基本にして下さい。
飾る時も仕舞う時も、手袋をするようにしましょう。

製品によつては、
竜頭や獅子頭等の前立てが
ないものもあります。



兜の飾り方



兜の仕舞い方



ワンポイントアドバイス

仕舞う前に羽根はたきなどでホコリを丁寧に払い落してください。また飾り金具や鍔形など金属部分に指紋がついている場合は、乾いた柔らかい布で丁寧に拭き取ってください。櫃の汚れも同様です。



男の子の初節句・端午の節句飾り

鎧の飾り方



製品により、このような場合もあります。

面頬のひもの長さを調節し、芯木上部に(みぞ等)にかけます。兜の眉庇と面頬が重なるくらいが美しく漸々く見えます。

面頬の紐の調節



●紐を長くする
結び目を押さえ、矢印の方向に軽く引きます。



鎧櫃を置きます。



はい盾の帯びの両端を、写真のように櫃と蓋の間にさしこみます。



はい盾の帯びの中心を櫃の中心に合わせて、しっかり蓋をしてください。



芯木を櫃の上に立てます。前後はやや手前に立ててください。
芯木に通し、少し肘を張りぎみにして形を整えてください。脇が緩んで肘が伸びた状態では、美しく見えません。



兜の飾り方を参照して、兜を組み立てて下さい。



兜を芯木に置き前後左右の傾きを調整してください。



脛当てを、毛沓に差し込み、櫃の前面に並べます。

鎧の名称

まえた
前立て

くわがただい
鎧形台 (受け口)

めんぼう
面頬

そで
袖

どう
脇

はい
たて
佩盾

すね
あて
脛宛

け
ぐつ
毛沓

くわ
鎧
がた
形

ふ
かえ
吹き返し

ま
びさし
眉庇

しのび
忍
お
緒

てつ
こう
手甲

くさ
草
すり
摺

よろい
びつ
鎧櫃



ワンポイントアドバイス

飾る時には、箱から兜・鎧やお道具類を取り出す順に写真を撮っておくと後の片付けが大変楽になります。

鎧の仕舞い方



脛当てを兜の左側の開いた箇所に仕舞います。



胴を仕舞います。保護のため、櫃に布または紙を敷き、金属部分は柔らかい薄紙等で包み、芯木を付けたまま胴を上の写真のように仕舞います。



兜は、柔らかな薄紙に包み、佩盾は薄紙またはビニール袋に包みます。



付属品を包みます。鎧形、龍頭などの金属は、柔らかな薄紙等で包み、毛沓などは箱に入れ付属箱に仕舞います。付属箱は段ボールの箱の底に仕舞います。